

海外の畜産物の需給動向

牛肉

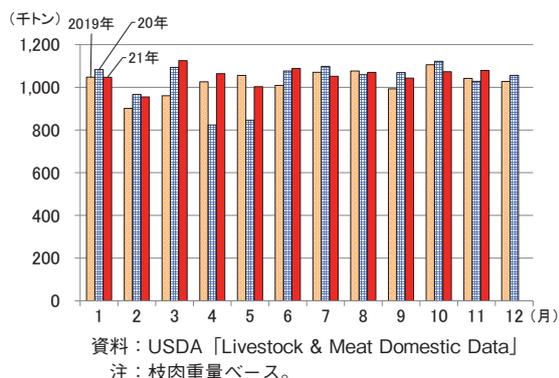
米 国

好調な輸出需要を背景に牛肉価格は引き続き高値で推移

11月の牛肉生産量、前年同月比5.0%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）が毎月更新する「Livestock & Meat Domestic Data」によると、2021年11月の牛肉生産量は107万9000トン（前年同月比5.0%増）と前年同月をやや上回った（図1）。これは、需要が堅調な中、同月の1頭当たり枝肉重量は前年同月比0.6%減となったものの、と畜場の稼働日数が前年同月より1日多く、と畜頭数が同5.6%増となったことが要因として挙げられる。

図1 牛肉生産量の推移



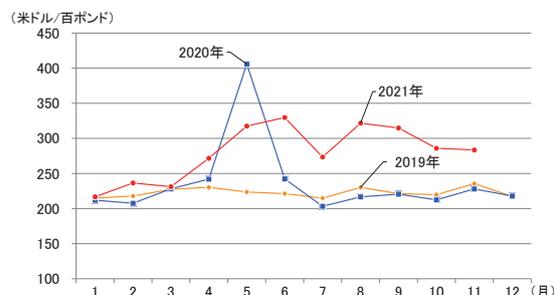
11月の牛肉卸売価格、引き続き高水準で推移

米国農務省農業マーケティング局

（USDA/AMS）によると、2021年11月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー）は100ポンド当たり283.5米ドル（1キログラム当たり725円：1米ドル=116円^{（注1）}）（前年同月比24.3%高）と引き続き高値で推移している（図2）。米国内の底堅い需要に加え、中国や日本、韓国向けの好調な輸出が価格を押し上げているとみられる。部位別では、特にかたばら（ブリスケット）、ともばら（ショートプレート）などがアジアからの好調な需要を受けて、高値となっている。

このような状況下で米国大統領行政府は、直近の牛肉を含む食肉価格の高騰について、大手食肉パッカーを批判している^{（注2）}。これに対して、食肉団体などは強く反発しており、今後の展開が注目されている。

図2 牛肉卸売価格の推移



(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末TTS相場。

(注2) 海外情報「米政権、大手食肉会社の価格引き上げを批判(米国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003132.html)を参照されたい。

10月の牛肉輸出量、前年同月比9.0%増

USDA/ERSの「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年10月の牛肉輸出量は12万7700トン（前年同月比9.0%増）と引き続き記録的なペースが続いており、同年1～10月の累計では129万7800トン（前年同期比19.6%増）となった（表）。

10月の牛肉輸出量を主要輸出先別に見ると、日本、韓国、中国向けは前年同月を上回った一方、その3カ国を除く主要輸出先向けは前年同月を下回った（図3）。

最大輸出先である日本向けは、外食需要の低迷から冷凍品が減少傾向にある一方、好調な小売需要に支えられた冷蔵品の伸びが大きく、全体では2万8200トン（前年同月比4.8%増）となった。2番手の韓国向けにつ

いては、米韓自由貿易協定に基づく関税引き下げが追い風となる中、日本と同様、冷凍品が伸び悩む一方、冷蔵品が大きく増加しており、全体では2万7800トン（同16.0%増）となった。この2大輸出先に接近する中国向けは、20年2月に発効した米中経済貿易協定第1段階合意以降、豪州産からの代替需要と現地の好調な食肉需要を背景に記録的な水準が続いており、2万1500トン（同2.4倍）と大幅に増加した。4番手のメキシコ向けは、前年同月が多かったことから、その反動で前年同月比ではかなり大きく減少したものの、1万1600トン（同13.4%減）と2021年1月以降はおおむね1万トン台で好調に推移している。

図3 主要輸出先別牛肉輸出量の推移

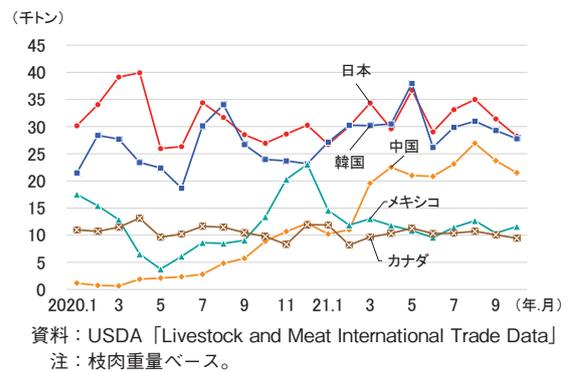


表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 10月	2021年 10月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)	シェア
日本	26.9	28.2	4.8%	314.3	▲0.9%	24.2%
韓国	24.0	27.8	16.0%	300.2	16.9%	23.1%
中国	8.9	21.5	142.3% (約2.4倍)	200.4	543.3% (約6.4倍)	15.4%
メキシコ	13.4	11.6	▲13.4%	117.7	15.7%	9.1%
カナダ	9.8	9.4	▲3.3%	102.2	▲6.6%	7.9%
台湾	8.3	6.9	▲15.9%	73.1	▲3.9%	5.6%
香港	11.7	5.8	▲50.1%	50.0	▲35.7%	3.9%
その他	14.4	16.4	14.0%	139.7	21.4%	10.8%
合計	117.2	127.7	9.0%	1,297.8	19.6%	100.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

豪州

2021年の肉牛取引価格、年間を通じて最高値更新が継続

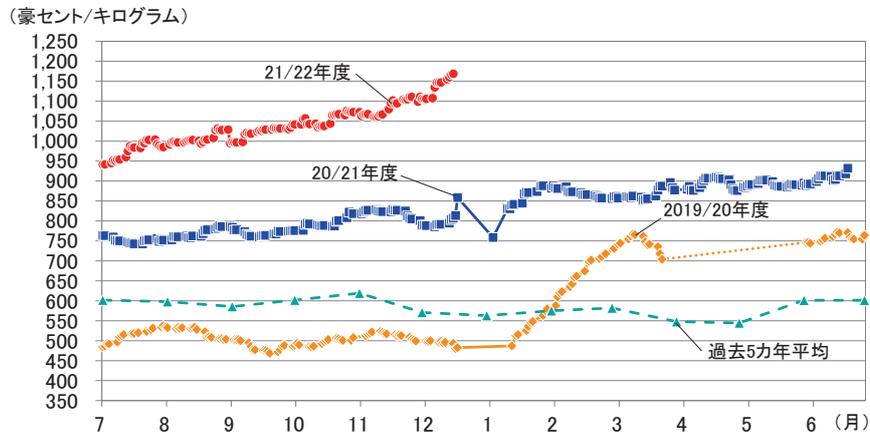
2021年末の肉牛生体取引価格も過去最高を記録

肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2021年最後の取引となる12月16日に、過去最高となる1

キログラム当たり1169豪セント（994円：1豪ドル=85円^{（注1）}）を記録した（図1）。これは、20年末の終値から同300豪セント以上の上昇となっている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

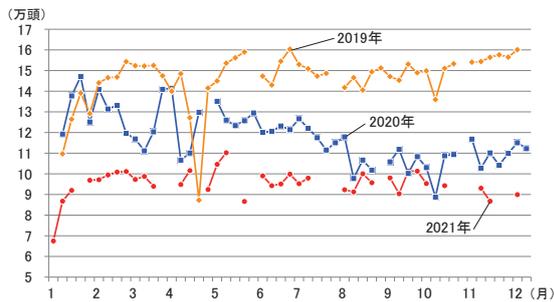
21年は、さまざまな専門家らが報道各社などに対してこのEYCI価格の見通しに関する見解を述べていたが、何度もこれらの予想を裏切り、価格は過去最高を記録し続けた。現地報道によると、肉用牛主要飼養地であるクイーンズランド州を中心に、広範囲にわたって降雨があり、牧草の生育が良好で潤沢にあることから、肥育農家が多く牛を入手しようとするため、今後2～3カ月は若齢牛をはじめとした牛への高い需要が継続するとされている。また、EYCI価格上昇と同時に、取引頭数も11月末ごろから約1.7倍に増加し

ていることについて、豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）は、牛の需要が供給を大きく上回っていることを示唆しているとしている。

2021年の成牛と畜頭数は、年間を通して低位で推移

MLAによると、2021年の成牛と畜頭数（週間報告）は、年間を通じておおむね9～10万頭で推移した。21年12月第1週は8万9972頭（前年同月同週比21.8%減）と前年同期の約8割となっており、2年前の同月同週（16万118頭）との比較では43.8%減と

図2 成牛と畜頭数の推移(週間報告)



資料：MLA Livestock Weekly

注1：成牛のみ（仔牛は含まない）。

注2：3～4月ごろの頭数減少は、イースター休暇に伴うと畜場休業によるもの。

大幅に減少している（図2）。なお、MLAの長期見通しによると、今後の牛群再構築の進展により、徐々にと畜頭数も増加するとしている（注2）。

（注2）『畜産の情報』2022年1月号「牛群再構築は2022年まで継続と予想」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001926.html）を参照されたい。

韓国向け牛肉輸出、セーフガード基準数量が迫るも在庫確保の動きにより増加

豪州農業・水・環境省(DAWE)によると、

2021年11月の牛肉輸出量は7万5712トン（前年同月比5.3%減）とやや減少した。一方、同年1～11月の累計（累計期間は以下同じ）では81万8824トン（前年同期比14.2%減）とかなり大きく減少している（表）。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本向けは2万239トン（前年同月比20.4%減）と大幅に減少し、累計でも21万6999トン（前年同期比12%減）となった。また、日本向けの内訳は、穀物肥育牛肉が56.2%、牧草肥育牛肉が43.8%を占めた（図3）。

続く韓国向けは、1万8238トン（前年同月比10.1%増）とかなりの程度増加し、累計では14万9872トン（前年同期比3.7%増）となった。また、前月（1万4920トン）比でも22.2%増と大幅に増加している。現地報道では、豪韓FTAに基づく21年のセーフガードの発動基準数量である17万7569トンに近づく中、韓国の輸入業者が牛肉在庫の確保に動いたことを大幅増の要因として挙げている。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2020年 11月	2021年 11月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～11月)	
				前年同期比 (増減率)	
日本	25,422	20,239	▲ 20.4%	216,999	▲ 12.0%
韓国	16,559	18,238	10.1%	149,872	3.7%
中国	13,064	13,157	0.7%	134,552	▲ 25.9%
米国	9,596	8,254	▲ 14.0%	129,748	▲ 34.0%
東南アジア	5,999	6,790	13.2%	88,536	1.5%
中東	2,803	2,472	▲ 11.8%	28,345	6.5%
EU	767	907	18.2%	7,454	▲ 8.3%
その他	5,736	5,656	▲ 1.4%	63,317	0.3%
輸出量合計	79,947	75,712	▲ 5.3%	818,824	▲ 14.2%

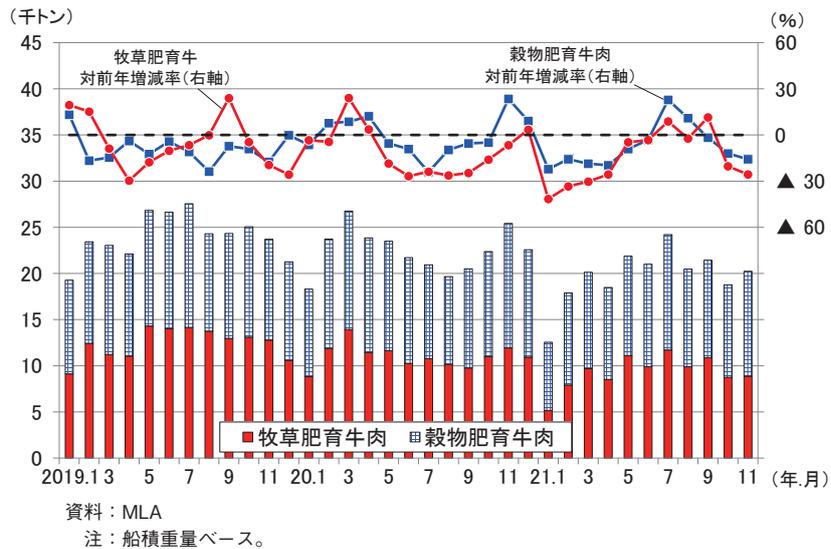
資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ）の合計。

図3 日本向け牛肉輸出量と増減率の推移



このような中、21年12月17日に豪州と英国は同年6月に合意したFTAに署名し、22年中の発効が予定されている^(注3)。豪州食肉産業協議会 (AMIC) はこの署名を歓迎・支持する声明を出しており、世界的な食肉需

要の高まりを背景に、協定発効後の豪州産牛肉の輸出動向が注目される。

(注3) 海外情報「英国政府、英豪FTAの合意内容の概要を発表」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002976.html) を参照されたい。

(調査情報部 国際調査グループ)

ブラジル

2021年1～11月の牛肉輸出量、前年同期を下回って推移

2021年の牛肉生産量は2年連続で減少見込み

米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) によると、2021年のブラジルの牛肉生産量は、前年比5.9%減の950万トン (枝肉重量ベース) と、2年連続での減少が見込まれている (図1)。これは、2018～19年にかけて、輸出向け需要の増加などにより雌牛のと畜が増加した影響で、と畜対象となる個体数が減少したためである。また、特に新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響から消費者の所得が減少する中で、食肉処理業者な

どが、高値で推移する肉用牛の仕入コスト上昇分を小売価格に十分転嫁できない状況にあることも生産減の一因とみられている。

図1 牛肉生産量の推移



2021年輸出量、中国向け輸出停止の影響で減少に転じる見込み

ブラジル経済省貿易局（SECEX）によると、2021年1～11月の冷蔵・冷凍牛肉の輸出量は、143万3302トン（前年同期比9.4%減、製品重量ベース）と前年同期をかなりの程度下回った（表）。

これは、9月4日にブラジルで非定型BSEの発生が確認され、一時的に中国などへの輸出停止措置が講じられた影響が大きい。特に中国向けは、10～11月の輸出量が激減したことから、71万6138トン（同8.2%減）と前年同期をかなりの程度下回った。なお、中国向け輸出停止措置は、12月15日に

解除されている。

そのほかの主な輸出先を見ると、チリ、米国、アラブ首長国連邦向けは、前年同期より大幅に増加した。特に米国向けは17年6月、ブラジル産牛肉の一部に安全性の問題があるとして生鮮牛肉（冷蔵・冷凍）の輸出が停止されたが、20年2月に輸出が再開し、前年同期比3.2倍増の6万712トンと、中国、香港、チリに次ぐ4番目の輸出先となった。

なお、ブラジルの年間ベース（1～12月）での牛肉輸出量は、17年以降4年連続で前年比10%程度増加していたが、21年は中国向けの減少が大きく影響し、全体で減少に転じると見込まれている。

表 牛肉輸出の推移

区分	2020年1～11月			2021年1～11月			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	780,095	3,626,693	4,649	716,138	3,863,787	5,395	▲ 8.2%	6.5%	16.1%
香港	194,598	751,865	3,864	124,213	553,852	4,459	▲ 36.2%	▲ 26.3%	15.4%
チリ	81,260	336,875	4,146	98,727	507,068	5,136	21.5%	50.5%	23.9%
米国	18,889	89,938	4,761	60,712	336,230	5,538	221.4%	273.8%	16.3%
エジプト	113,470	380,581	3,354	47,421	200,630	4,231	▲ 58.2%	▲ 47.3%	26.1%
アラブ首長国連邦	36,383	143,536	3,945	42,644	188,796	4,427	17.2%	31.5%	12.2%
フィリピン	36,258	122,693	3,384	40,125	168,357	4,196	10.7%	37.2%	24.0%
サウジアラビア	37,531	149,105	3,973	35,608	165,726	4,654	▲ 5.1%	11.1%	17.1%
その他	283,398	1,203,368	4,246	267,714	1,369,809	5,117	▲ 5.5%	13.8%	20.5%
合計	1,581,882	6,804,653	4,302	1,433,302	7,354,257	5,131	▲ 9.4%	8.1%	19.3%

資料：SECEX

注：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

肉用牛価格は堅調な輸出需要を背景に記録的な高値で推移

直近のと畜向けの肉用牛価格は、一時的に牛肉輸出量が減少したものの、堅調な輸出需要を背景に記録的な高値で推移している。最近の価格動向を見ると、中国における

COVID-19の影響により2020年1月中旬から2月上旬にかけて1キログラム当たり12レアル（252円、1レアル＝21円^{（注）}）台に下落しが、6月ごろから上昇傾向で推移し、同年11月には同19レアル（399円）台と前年同月比で6割程度価格が上昇した。その後、20年末から21年初にかけて一時的に、また、

9月に非定型BSEの発生が確認されたことで大きく下落したが、その後持ち直し、直近12月21日時点では同21.85レアル(459円)と記録的な高値で推移している(図2)。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」2021年12月末TTS相場。

図2 肉用牛価格の推移



資料：サンパウロ大学応用経済研究所 (CEPEA)

(調査情報部 井田 俊二)

豚 肉

米 国

豚肉生産量、2022年前半はタイトとなる見通し

豚の飼養頭数、前年比4.0%減

米国農務省全国農業統計局(USDA/NASS)の「Hogs and Pigs」(四半期報告)によると、2021年12月1日時点の豚総飼養頭数は、繁殖豚頭数が前年並みながらも肥育豚頭数の減少から、7420万1000頭(前

年比4.0%減)となった(表1)。また、9～11月期の1腹当たりの産子数は11.19頭と前年をわずかに上回ったものの、分娩母豚頭数が減少したことから産子数も減少した。これにより、当面、肥育豚頭数の増加は見込めないものとなる。

豚肉需要は堅調であるものの、母豚価格の

表1 豚飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
総飼養頭数(12月1日時点)	75,070	78,228	77,312	74,201	▲4.0%
繁殖豚	6,326	6,471	6,176	6,180	0.1%
肥育豚	68,745	71,757	71,136	68,021	▲4.4%
50ポンド(23キログラム)未満	21,858	22,048	21,989	21,174	▲3.7%
50～119ポンド(23～53キログラム)	19,369	20,636	19,680	19,185	▲2.5%
120～179ポンド(54～81キログラム)	14,323	15,256	15,791	14,809	▲6.2%
180ポンド(82キログラム)以上	13,195	13,816	13,675	12,853	▲6.0%
分娩母豚頭数(9～11月)	3,205	3,197	3,165	3,012	▲4.8%
産子数(9～11月)	34,496	35,459	34,987	33,712	▲3.6%
1腹当たり産子数(9月～11月)(頭)	10.76	11.09	11.05	11.19	1.3%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

上昇で生産者は繁殖豚を導入しにくい状況にあることから、20年6月以降、豚の飼養頭数はおおむね前年を下回って推移している。肥育豚を重量別に見ると、特に1頭当たり120ポンド（54キログラム）を超える肥育豚の減少幅が大きいことから、22年第1四半期の豚肉供給は引き続きタイトになると見込まれ、同期間の豚肉価格は堅調に推移すると思われる。また、1腹当たりの産子数は、21年の初めに養豚産業が盛んな中西部の北部の州で豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）が発生していたことなどから減少していたが、生産者のPRRS対策により正常な生産環境に改善したことなどから、増加に転じたとみられている。

11月の豚肉卸売価格、引き続き高水準で推移

米国農務省農業マーケティング局(USDA/AMS)によると、2021年11月の豚肉卸売価格は100ポンド当たり93米ドル（1キログラム当たり238円：1米ドル=116円^(注1)、前年同月比14.6%高）と14カ月連続で前年同月を上回った（図1）。同価格は、中国向け輸出の大幅な減少により、やや軟化傾向にあるものの、豚肉生産量の減少などが

ら依然として高水準で推移している。

このような状況下で米国大統領行政府は、直近の豚肉を含む食肉価格の高騰について、大手食肉パッカーを批判している^(注2)。これに対して食肉団体などは強く反発しており、今後の展開が注目されている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末TTS相場。

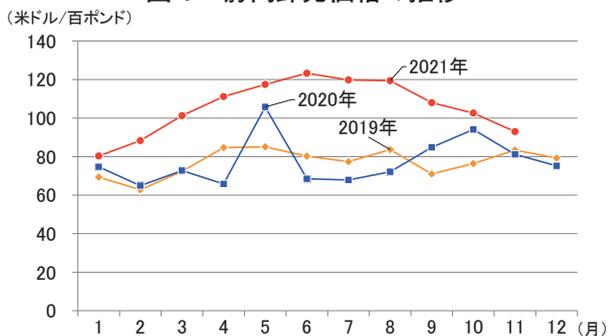
(注2) 海外情報「米政権、大手食肉会社の価格引き上げを批判（米国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003132.html)を参照されたい。

豚肉輸出量、メキシコ向けが増加する一方、中国向けの減少が続く

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）の「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年10月の豚肉輸出量は24万5300トン（前年同月比8.4%減）と前年同月をかなりの程度下回り、同年1～10月の累計では268万4600トン（前年同期比1.5%減）となった(表2、図2)。

10月の豚肉輸出量を主要輸出先別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは、引き続き同国の経済回復に伴い豚肉需要が好調を維持していることなどから、前年同月比5割増と大幅に増加した。一方、中国向けは、同国内の豚肉生産量の回復に伴い6月以降は減少に転じており、同約6割減と大幅に減少した。日本、韓国向けは、好調な小売需要を背景に冷蔵品が増加傾向となっている一方、業務需要の多い冷凍品が減少している。

図1 豚肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。

表2 米国の輸出先別豚肉輸出量の推移

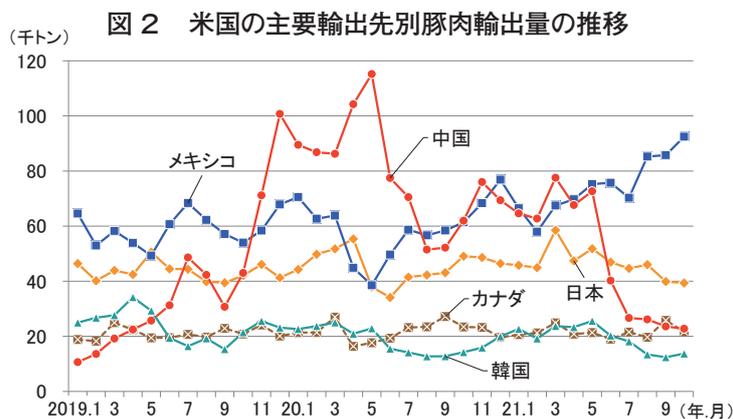
(単位：千トン)

	2020年 10月	2021年 10月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~10月)	前年同期比 (増減率)	シェア
メキシコ	61.4	92.4	50.6%	746.3	32.0%	27.8%
中国	62.0	22.8	▲63.3%	484.5	▲39.1%	18.0%
日本	49.1	39.3	▲19.9%	465.2	3.6%	17.3%
カナダ	23.4	21.7	▲7.5%	216.5	▲1.7%	8.1%
韓国	14.2	13.7	▲3.5%	192.5	4.3%	7.2%
フィリピン	6.1	3.2	▲47.7%	89.0	115.3% (2.2倍)	3.3%
コロンビア	8.1	15.3	89.4%	106.5	59.0%	4.0%
その他	43.5	36.9	▲15.0%	384.0	▲4.9%	14.3%
合計	267.7	245.3	▲8.4%	2,684.6	▲1.5%	100.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。



(調査情報部 河村 侑紀)

E U

9月の中国向け輸出量は前年同月比56.3%減

9月の豚肉生産量は前年同月比1.1%減

欧州委員会によると、2021年9月の豚肉生産量（EU27カ国）は、1頭当たり枝肉重量が前年同月比0.4%減の92.3キログラム、と畜頭数が同0.7%減の2094万頭といずれも減少したことで、同1.1%減の193万3510トンとなった（図1、表）。また、1～

9月の累計では、前年同期をわずかに上回る1741万トン（前年同期比2.5%増）となった。

9月の生産量を主要生産国別に見ると、スペイン（前年同月比8.3%増）、オランダ（同1.8%増）、イタリア（同5.6%増）が前年同月を上回った。一方、ドイツ（同6.4%減）、フランス（同0.5%減）、ポーランド（同6.0%減）、デンマーク（同11.1%減）が前年同月を下回った。特にドイツは、3カ月連続で前

年同月を下回り、1～9月の累計では、前年同期比2.5%減の372万7000トンと主要生産国の中で唯一前年同期を下回った。ドイツでは、豚飼養頭数および養豚農家戸数も減少傾向にあり、豚肉生産基盤の弱体化が懸念されている^(注1)。

(注1) 海外情報「ドイツの豚飼養頭数、25年ぶりの低水準に(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003150.html)を参照されたい。

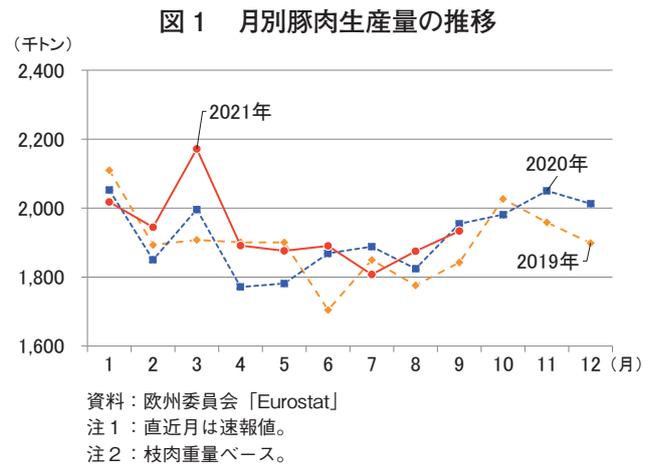


表 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2020年 9月	2021年 9月	2021年 (1～9月)	
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
スペイン	400	434	8.3%	3,818
ドイツ	437	409	▲ 6.4%	3,727
フランス	187	186	▲ 0.5%	1,650
ポーランド	177	166	▲ 6.0%	1,462
オランダ	141	143	1.8%	1,282
デンマーク	154	137	▲ 11.1%	1,294
イタリア	104	110	5.6%	994
その他	355	349	▲ 1.7%	3,181
合計	1,955	1,934	▲ 1.1%	17,408

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

11月の豚枝肉卸売価格は、前年同月比4.6%安

欧州委員会によると、2021年11月の豚枝肉卸売価格(EU27カ国)は、前年同月比4.6%安の100キログラム当たり128.66ユーロ(1万6984円：1ユーロ=132.01円^(注2))となった。

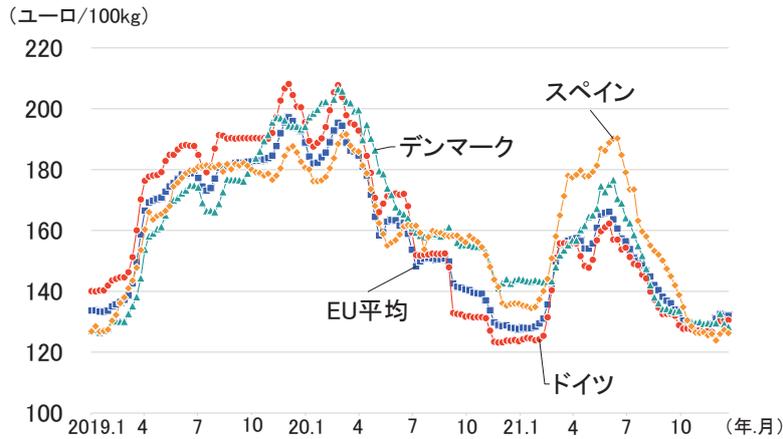
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末TTS相場。

同価格の推移を週ごとに見ると、6月14日の週を境に下落に転じ、10月11日の週には同130ユーロ(1万7161円)を下回った

ものの、直近の12月27日の週は前週比同の同131.96ユーロ(1万7420円)となった(図2)。週別価格は、クリスマス需要もあり12月に入ると、130ユーロを上回って推移するなどわずかに回復している。しかし、一部の加盟国は12月、同価格が依然として低水準で推移していることから、欧州委員会に対し民間在庫補助を含む緊急支援を要請したが、前回同様に拒否された^(注3)。

(注3) 海外情報「欧州委員会、豚肉の市場介入措置の発動要請を3回連続で拒否(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003140.html)を参照されたい。

図2 豚枝肉卸売価格の週別推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」

注1：EU参考価格（CLASS E）。

注2：デンマークの2020年2月17日および2021年10月11日はデータなし。

EU域外向け輸出量は6カ月連続で前年同月を下回る

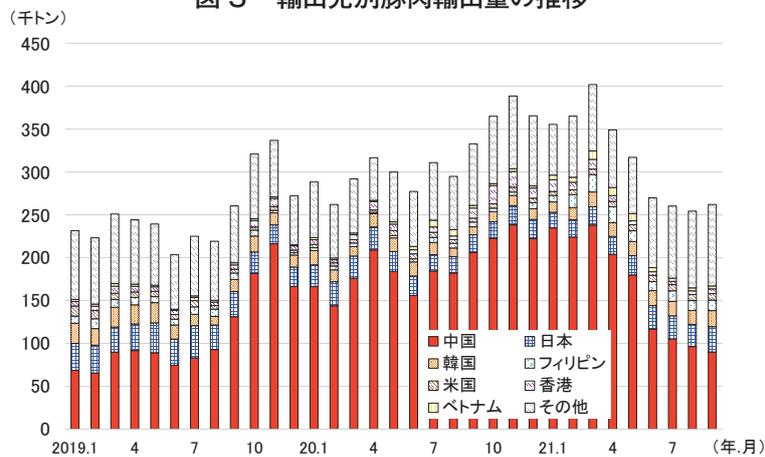
欧州委員会によると、2021年9月のEU域外への豚肉（生鮮・冷蔵・冷凍）輸出量（EU27カ国）は26万2030トン（前年同月比21.3%減）と前年同月を大幅に下回った（図3）。

主要輸出先別に見ると、EU域外向け輸出量の34%を占め最大の輸出先である中国向け（同56.3%減）や香港向け（同53.3%減）は、いずれも前年同月の半分以下まで輸出量

が減少した。一方、日本向け（同42.9%増）、韓国向け（同2.0倍）、フィリピン向け（同2.2倍）、米国向け（同68.8%増）は軒並み前年同月を大幅に上回ったものの、中国・香港向けの減少分を埋め合わせるには至らなかった。

中国向けは、同国でのアフリカ豚熱の発生に伴い19年後半から輸出量が増加し始め、一時期はEU域外向け輸出量の約60%を占めるなど、中国需要の恩恵を受ける形となっていた。しかし、中国での豚肉供給量の回復に伴い、同国向けの輸出量は6カ月連続で前年同月を下回っている。特に7月以降は減少幅

図3 輸出先別豚肉輸出量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注：製品重量ベース。

が前年同月比で40%を超えるなど、急速に減退している。

また、こうした状況の中、中国は豚肉需給の改善に伴い一時的に8%に引き下げていた

豚肉の最恵国関税を22年1月から元の12%に引き上げた。同国向けの輸出は引き続き厳しい状況が続くとみられることから、今後は中国以外の地域への輸出が注目される。

(調査情報部 小林 智也)

鶏肉

タイ

日本向け輸出量、冷凍鶏肉と調製品で8月以降は前年を下回る

2021年の鶏肉生産は前年比微増で推移

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2021年1～11月の鶏肉生産量は、前年同期比1.1%増の193万2180トンとわずかに増加した(図1)。20年の鶏肉生産量は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大に伴う影響などから月ごとの生産量に大きな増減が見られた。しかし、21年はこの影響が徐々に落ち着きを見せてきたとされており、また、安定した輸出需要などから鶏肉生産量は19年並みの水準で推移している。9月以降は、同国内のCOVID-19の新規感染者数が減少傾向にある中で、11月の生産

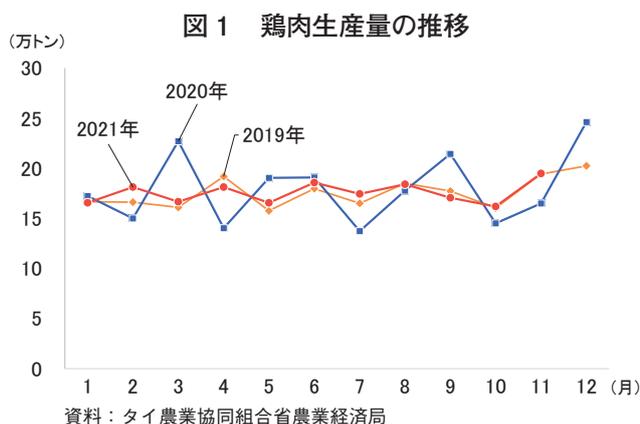
量は前月を上回っている。

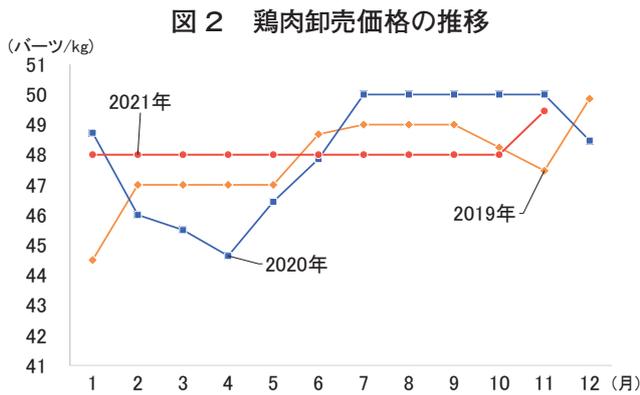
11月の国内の鶏肉卸売価格は上昇

2021年11月の鶏肉卸売価格は、1キログラム当たり49.5バーツ(173円：1バーツ=3.5円^(注))と20年下期の水準にまで上昇した(図2)。タイでは、20年に入り、COVID-19の世界的な拡大に伴う輸出需要の低下や国内経済への影響などから鶏肉卸売価格は大きく下落した。しかし、その後の輸出需要の回復などから同価格は上昇し、21年1月以降は同48バーツ(168円)と安定して推移していた。現地関係者によると、世界的な食肉需要に加え、国内消費の回復が11月の価格上昇を後押ししたとされている。

一方で、9月以降の新規感染者数の減少に伴い食鳥処理・加工施設の操業状況は少しずつ回復に向かう中で、新型コロナウイルスの新規変異株の影響により、規制強化に向けた動きもあるなど、今後の鶏肉生産、価格見通しは不透明なものとなっている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末TTS相場。





資料：タイ農業協同組合省農業経済局

21年1～10月の日本向け冷凍鶏肉輸出は大幅増も8月以降は前年を下回る

2021年1～10月の冷凍鶏肉の輸出量は、31万3900トン（前年同期比13.6%増）とかなり大きく増加した（表1）。輸出先別に

見ると、最大の輸出先である日本向けは14万4438トン（同39.7%増）と大幅に増加した。21年上半期を中心に日本市場で競合するブラジル産鶏肉の高騰を受けてタイ産への需要が高まったことで、10月時点ですでに過去4年の輸出量をいずれも上回る状況にある。しかし、8月以降は、日本向け食鳥処理・加工施設でのクラスター発生の影響などからの回復が遅れているため、輸出量は前年同月割れが続いている。

一方、中国向けは、8万6522トン（同12.0%減）とかなり大きく減少した。中国では、豚肉生産の回復に伴い代替需要として増加傾向にあった鶏肉需要は減少傾向にあるとされている。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：万トン）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
日本	12.6	13.7	12.2	12.8	14.4	39.7%
中国	—	2.1	7.6	11.5	8.7	▲12.0%
マレーシア	2.7	3.2	4.1	4.1	3.7	11.1%
韓国	0.2	0.6	1.1	0.8	1.1	69.7%
香港	0.4	0.5	0.5	0.9	0.8	12.0%
その他	6.0	6.4	4.8	3.3	2.7	▲2.7%
合計	21.9	26.5	30.3	33.3	31.4	13.6%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

鶏肉調製品の輸出も8月以降は前年を下回る

2021年1～10月の鶏肉調製品輸出量は、44万6893トン（前年同期比1.9%減）となった（表2）。輸出先別に見ると、オランダ向けが3万806トン（同35.8%増）と大幅に増加した。しかし、主要輸出先である日本、英国および韓国向けがそれぞれ23万5920トン（同3.1%減）、10万9560トン（同7.8%

減）、1万7209トン（同12.5%減）と減少したため、全体では前年をわずかに下回った。鶏肉調製品も冷凍鶏肉と同様、8月以降の日本向け輸出量は前年を下回る状況が続いている。食鳥処理・加工施設では、ミャンマーやカンボジアなどからの外国人労働者が多く、COVID-19による入国規制の影響で外国人労働者を中心とした労働力不足が深刻とされている。このため、タイ産を扱う日本の鶏肉冷凍製品の販売にも影響を与えている。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1~10月)	前年同期比 (増減率)
日本	27.4	28.1	29.5	29.2	23.6	▲3.1%
英国	13.8	15.8	16.5	14.2	11.0	▲7.8%
オランダ	3.1	3.4	3.6	2.8	3.1	35.8%
韓国	2.2	2.5	3.0	2.4	1.7	▲12.5%
その他	5.0	5.1	6.4	6.1	5.3	4.8%
合計	53.3	56.0	59.0	54.6	44.7	▲1.9%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

豪州

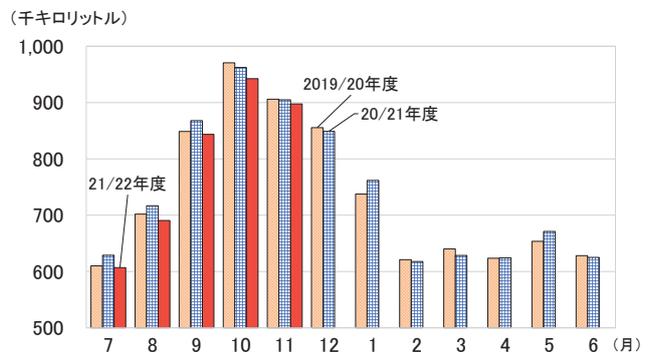
生乳生産量、前年同月を6カ月連続で下回る

長雨による牧草生育への影響から、 生乳生産量は低迷

デーリー・オーストラリア (DA) によると、2021年11月の生乳生産量は89万7632キロリットル (92万4600トン相当、前年同月比0.8%減) となり、6カ月連続で前年同月を下回った(図1)。これは、ラニーニャ現象の発生に伴う長雨により、牧草の生育に影響が生じたことが一因とみられている。このためDAは、今シーズンの生乳生産は前年度を上回る可能性は低いと見込んでいる。また、乳業間での生乳の獲得競争が高まることでさらなる生産者支払乳価の引き上げも見込まれており、酪農家の収益性は引き続き良好な状態を維持するとの見込みを示している(注)。

(注) 海外情報「生乳生産量は減少も、酪農家の収益性は良好との見通し(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003146.html)を参照されたい。

図1 生乳生産量の推移



資料：DA
注：年度は7月～翌6月。

また、2021/22年度(7月～翌6月)の11月までの累計生乳生産量は、398万1000キロリットル(410万トン相当、前年同期比2.4%減)と前年同期をわずかに下回った(表1)。

生乳生産量を州別に見ると、酪農主産地であるビクトリア(VIC)州西部やタスマニア(TAS)州などで減少している。この要因としてDAは、特にこれらの地域では、例年に比べて降雨量が多く、強風や冷涼な天候の影

響によりサイレージ用の牧草の収穫が遅れているほか、飼料の質の低下により牛1頭当たりの乳量が減少していることが要因であるとしている。また、大麦や小麦など冬作物の収穫時期である春（9～11月）に例年以上の降雨があったことで収穫がずれこみ、飼料向け穀物の保存にも影響が生じているとしてい

る。さらに、干し草やかんがい用水の確保はできているものの、飼料穀物価格など生産コストが上昇傾向にあるほか、COVID-19の影響に伴う国境の封鎖などによる、労働力や機械設備などの調達の遅れも課題になっているとしている。

表1 州別の生乳生産量の推移

(単位：千キロリットル)

州名	2020年 11月	2021年 11月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度 (7～11月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ビクトリア州	583.1	576.6	▲ 1.1 %	2,610.4	▲ 3.0 %
ニューサウスウェールズ州	94.8	99.5	4.9 %	495.4	3.3 %
タスマニア州	119.6	113.5	▲ 5.1 %	367.8	▲ 6.6 %
南オーストラリア州	48.1	49.7	3.3 %	216.4	▲ 0.3 %
西オーストラリア州	32.1	30.7	▲ 4.6 %	152.4	▲ 4.4 %
クイーンズランド州	27.1	27.7	2.2 %	138.6	▲ 0.1 %
合計	904.9	897.6	▲ 0.8 %	3,981.0	▲ 2.4 %

資料：DA

全粉乳を除く、主要乳製品3品目の輸出量が前年同月比で減少

DAが発表した2021年10月の主要乳製品4品目の輸出量は、全粉乳を除きいずれも減少した（表2、図2）。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、インドネシアやタイなど東南アジア向けが増加した一方、中国向けが減少したことから8136トン（前年同月比6.1%減）と前年同月を下回った。また、21/22年度10月までの累計（累計期間は以下同じ）では3万2279トン（前年同期比5.2%増）とやや増加している。

全粉乳は、中国や東南アジア向けが増加し

たことから4383トン（前年同月比10.7%増）と1カ月ぶりに増加に転じた。また、累計では1万3442トン（前年同期比35.2%増）と大幅に増加している。

一方、バターおよびバターオイルは、中国向けの減少などから1678トン（前年同月比1.1%減）とわずかに減少した。また、累計では7403トン（前年同期比3.6%減）とやや減少している。

チーズは、主要輸出先である韓国向けの減少などから1万2039トン（前年同月比11.0%減）と前年同月をかなり大きく下回った。また、累計では4万6897トン（前年同期比6.0%増）とかなりの程度増加している。

表 2 乳製品輸出量の推移

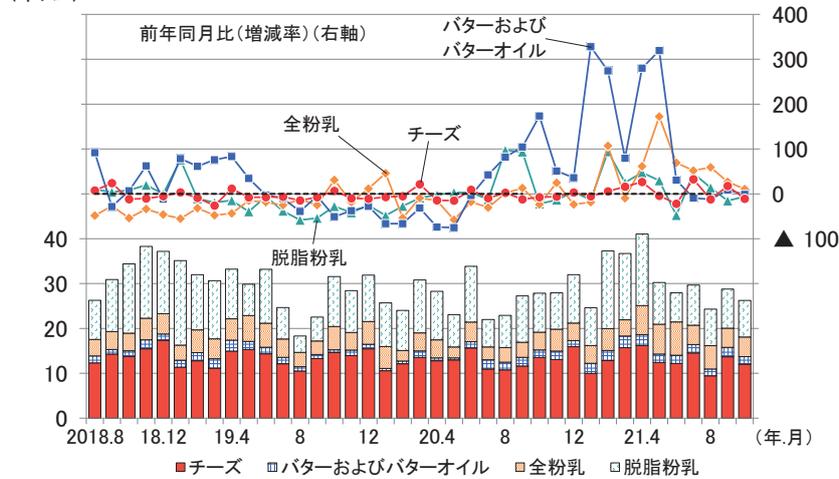
(単位：トン)

品目	2020年 10月	2021年 10月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度 (7~10月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	8,661	8,136	▲ 6.1 %	32,279	5.2 %
全粉乳	3,959	4,383	10.7 %	13,442	35.2 %
バターおよび バターオイル	1,698	1,678	▲ 1.1 %	7,403	▲ 3.6 %
チーズ	13,527	12,039	▲ 11.0 %	46,897	6.0 %

資料：DA

注：製品重量ベース。

図 2 乳製品輸出量および前年同月比(増減率)の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部 廣田 李花子)

N Z

生乳生産量、12月以降も不透明な見通し

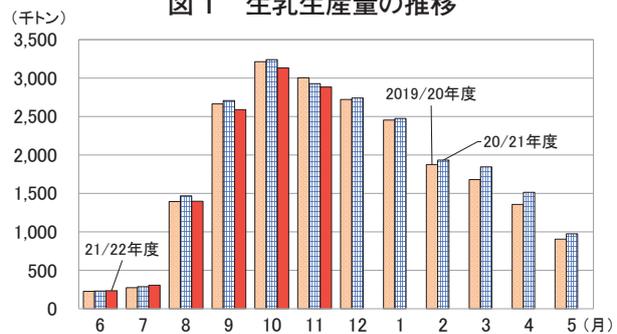
例年以上の降雨の影響で生乳生産量は4カ月連続減

ニュージーランド乳業協会 (DCANZ) によると、2021年11月の生乳生産量は288万3800トン(前年同月比1.5%減)とわずかに減少し、4カ月連続で前年同月を下回った(図1)。

また、今後の飼料生産についてニュージーランド証券取引所 (NZX) は、一部の地域では、ラニーニャ現象の影響から雨量が増加しており、12月~翌2月はサイレージ用牧

草の収穫や穀物の発芽への影響が続き、生乳生産量の推移は引き続き不透明であると予測している。

図 1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月~翌5月。

11月の乳製品輸出量、主要4品目 いずれも前年同月比減

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2021年11月の乳製品輸出量は、主要4品目いずれも前年同月を下回った（表1、図2）。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、最大の輸出先である中国向けが前年同月をかなりの程度上回ったものの、東南アジア向けなどが落ち込んだことで、全体ではかなり大きな減少と

なった。全粉乳も、最大の輸出先である中国向けは前年同月をかなりの程度上回ったものの、東南アジアやアフリカ向けなどが落ち込んだことで、全体ではわずかな減少となった。バターおよびバターオイルは、エジプトやUAE向けが好調だったものの、中国向けが前年同月を大幅に下回ったことで、全体でも大幅に減少した。チーズは、日本向けが前年同月をやや上回ったものの、豪州、中国、韓国向けなどが落ち込んだことで、全体ではかなりの程度減少した。

表1 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

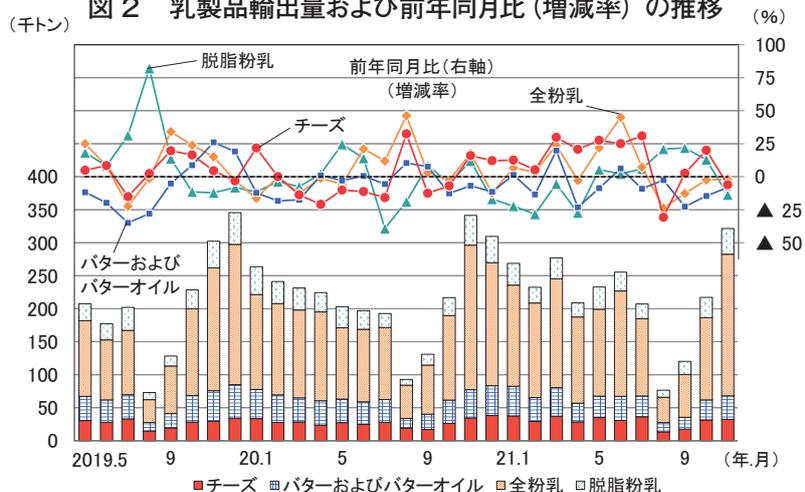
品目	2020年 11月	2021年 11月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度	前年同期比 (増減率)
				(7~11月)	
脱脂粉乳	45,214	39,004	▲ 13.7 %	122,513	3.3 %
全粉乳	218,807	214,595	▲ 1.9 %	559,846	▲ 3.6 %
バターおよび バターオイル	42,923	35,570	▲ 17.1 %	129,339	▲ 8.1 %
チーズ	34,454	32,357	▲ 6.1 %	131,037	5.0 %

資料：Stats NZ

注1：製品重量ベース。

注2：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

GDT、アジア諸国からの需要が引き続き堅調

2021年12月21日に開催されたグローバルデイリートレード（GDT：月2回開催さ

れるフォンテラ社主催の電子オークション。（乳製品の国際価格の指標とされる。）の1トン当たり平均取引価格は、全粉乳を除く主要3品目が前回開催（同年12月7日）時から上昇した（表2、図3）。

表2 GDT乳製品取引価格（2021年12月21日開催）

（単位：米ドル/トン、万円/トン）

品目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,745	43.4	27.8 %	0.6 %
全粉乳	3,867	44.9	20.5 %	▲3.5 %
バター	5,851	67.9	38.6 %	1.0 %
チーズ	5,241	60.8	34.6 %	0.4 %

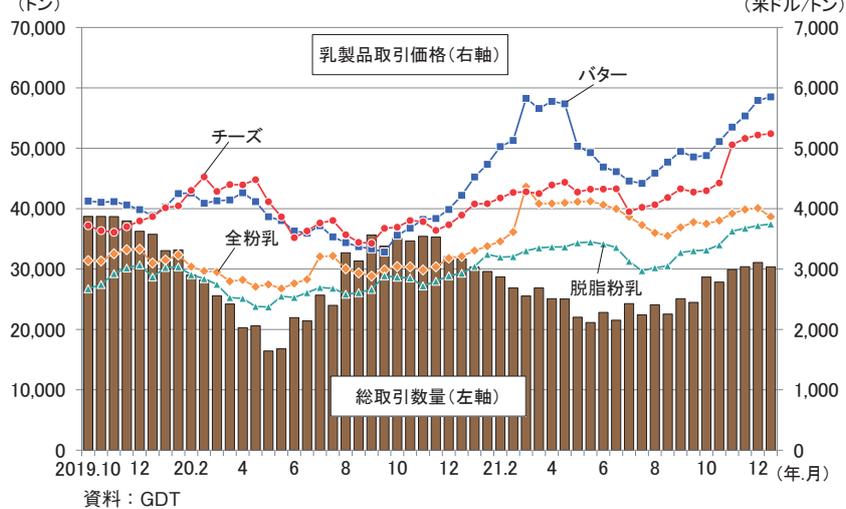
資料：GDT

注1：1米ドル=116.0円として計算。

注2：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末TTS相場。

注3：前回は12月7日に開催。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

品目別に見ると、脱脂粉乳は、東南アジアからの需要にけん引され、1トン当たり3745米ドル(43万4000円、前回比0.6%高)となった。全粉乳は、東南アジアからの需要が落ち着く中で、北アジア^(注)からの旺盛な需要にけん引され、同3867米ドル(44万9000円、同3.5%安)と全体としてはやや下落にとどまった。バターは、北アジアからの需要が最も強かったほか、東南アジアから

の需要も増加し、同5851米ドル(67万9000円、同1.0%高)と前回をわずかに上回った。チーズは、北アジアのほかアフリカからの需要にけん引され、同5241米ドル(60万8000円、同0.4%高)となった。

(注) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

(調査情報部 廣田 李花子)

中国

堅調な需要に後押しされ、生乳生産量、輸入量ともに増加

2021年の生乳生産量は過去最高の可能性

中国国家统计局によると、2021年1～9月の生乳生産量は、前年同期比7.9%増の2514万トンとなった（図1）。また、中国農業農村部は、11月4日に開催された記者会見で、21年の生乳など（牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなど由来の乳を含む。以下同じ）の生産量は過去最高を記録する可能性がある」と発表した。

生乳生産の伸びが予測される中で、中国農業農村部は12月14日、今後の畜産振興政策の柱となる5カ年計画^{（注1）}を公表した。この中で酪農については、25年までに生乳などの自給率^{（注2）}を70%以上に引き上げることや、乳製品の品質と安全性の向上などを目標に掲げている。これらの目標達成に向け、家畜の飼養・疾病管理の強化、コールドチェーンの整備などを推進するとしており、引き続き酪農・乳業を強力に振興していくという姿勢を見せている。

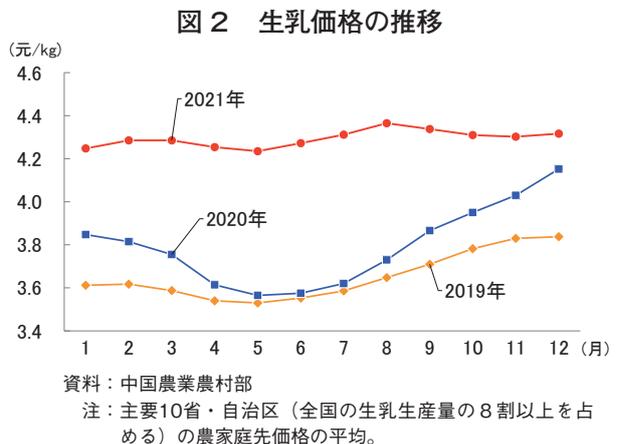
（注1）「<十四五>全国畜牧兽医行业发展规划」（2021年農牧発37号）を指す。

（注2）現状の生乳などの自給率について公表された数値はないが、2021年4月に公表された「中国農業展望報告（2021-2030）」で示された20年の生産量（3546万トン）と消費量（5354万トン）から試算すると、同年の生乳などの自給率は66%程度と推定される。

生乳価格は年間を通して高値で推移

生乳生産量が増加している中で、乳製品需要が引き続き堅調なことなどから、2021年12月の生乳価格は1キログラム当たり4.32元（79円：1元=18.4円^{（注3）}）と高値を維持している（図2）。同年の生乳価格は、1月に同4.2元（77円）を超えて以来、年間を通してこの水準を超える高値で推移している。

今後の生乳価格の動向について、飼料コストは引き続き高値で推移すると見込まれること、また、春節（22年は1月31日から2月6日）に向けた乳製品需要の高まりが予想されることから、生乳価格も引き続き高値で推移するとみられる。現地専門家からは、こうした流れを受け、春節に向けて生乳価格はこの水準よりさらに10%程度上昇する可能性があるという意見も出ている。



(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末TTS相場。

乳製品輸入量は一部を除き昨年の年間実績を上回って推移

堅調な需要を背景に、2021年1～11月の主な乳製品輸入量はおおむね増加傾向にある。ただし、ヨーグルトと育児用調製粉乳(以下「育粉」という)は、前年同期比でそれぞれ減少し、特に育粉は同2割以上の減少となっている(表)。この要因について現地専門家は、最近の傾向として、ヨーグルトなどは消費者の志向が国産の製品にシフトしていることに加え、育粉は新生児数の減少から需要量自体も減少していることを挙げている。このため、国内の育粉製造業者の一部は、ヤギ乳を使用した育粉や成人向け粉乳(高齢者などを対象とした栄養素を添加したもの)など、消費者層の変化を踏まえニッチな市場に目を向け始めているという。また、特に育粉

の輸入量減少については、留学生による「代購」と呼ばれる代理購入による現地発送や、旅行者などが持ち帰ってくる「ハンドキャリー」分が、コロナ禍で大きく減少したためとする専門家もいる。

一方、全粉乳、脱脂粉乳、飲用乳、チーズ、バターおよびホエイは、いずれも前年同期より大幅に増加しており、11月時点ですでに昨年の年間輸入実績を上回っている。さまざまな商品の原料となる全粉乳および脱脂粉乳に注目すると、中国国内の生乳価格の高止まりによる国内外の原料価格差の拡大から、一部乳業が生産コストを意識して輸入粉乳にシフトしているとされている。現地専門家によると、国内の生乳価格が引き続き高い水準にあるため、乳業による輸入需要は依然として大きく、21年の全粉乳と脱脂粉乳の輸入量は、2品目合計で前年を大きく上回る140万トンを超えるとみている(参考:20年の全粉乳と脱脂粉乳を合計した輸入実績は97万9000トン)。

表 主な乳製品の品目別輸入数量の推移

(単位:万トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1～11月)	前年同期比 (増減率)
全粉乳	47.0	52.1	67.1	64.4	81.7	38.1%
脱脂粉乳	24.7	28.0	34.4	33.6	40.6	30.9%
飲用乳	52.9	54.4	72.9	84.5	90.7	21.5%
ヨーグルト	2.8	2.7	3.2	2.8	2.3	▲14.6%
チーズ	10.8	10.8	11.5	12.9	16.3	38.1%
バター	6.6	8.7	6.2	8.6	9.0	13.6%
育児用調製粉乳	30.3	33.3	35.6	34.8	24.3	▲23.6%
ホエイ	52.7	55.5	45.1	62.3	67.9	20.2%

資料:「Global Trade Atlas」

注:HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトが0403.10、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

(調査情報部 阿南 小有里)

飼料穀物

世界

2021/22年度の世界のトウモロコシ期末在庫、増産見込みを背景に19/20年度の水準に近づく

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2021年12月9日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した (表)。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は、12億873万トン (前年度比7.7%増、前月比0.3%増) と前月並みながらも史上最高が見込まれている。国別に見ると、収量の増加などによりウクライナが200万トン、EUが250万トンそれぞれ上方修正された一方、中国は作付面積が増加したものの収量が減少したことから45万トン下方修正された。

輸出量は、世界全体で2億486万トン (同15.4%増、同0.7%増) と前月から139トン上方修正された。国別に見ると、生産量で上

方修正のあったウクライナが100万トン、EUが50万トンそれぞれ上方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8545万トン (同0.6%減、同1.1%増) と前月から203万トン上方修正された。主要輸入国である中国は2600万トンと前月から変わらず、引き続き高水準が見込まれている。

消費量は、世界全体で11億9588万トン (同5.2%増、同0.3%増) と前月から381万トン上方修正された。主要生産国の中では、ウクライナが40万トン上方修正された。

この結果、期末在庫は、増産見込みを背景に前月から112万トン上方修正され、3億554万トン (同4.4%増) と19/20年度に近い在庫水準が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2021年12月9日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)
米 国					
期首在庫	56.41	48.76	31.41	31.41	▲ 35.6%
生産量	345.96	358.45	382.59	382.59	6.7%
輸入量	1.06	0.62	0.64	0.64	3.2%
消費量	309.55	306.49	313.20	313.20	2.2%
輸出量	45.13	69.92	63.50	63.50	▲ 9.2%
期末在庫	48.76	31.41	37.94	37.94	20.8%
アルゼンチン					
期首在庫	2.37	3.62	1.62	1.62	▲ 55.2%
生産量	51.00	50.50	54.50	54.50	7.9%
輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	14.00	14.50	14.50	3.6%
輸出量	36.25	38.50	39.00	39.00	1.3%
期末在庫	3.62	1.62	2.63	2.63	62.3%
ブラジル					
期首在庫	5.31	5.23	5.23	5.23	0.0%
生産量	102.00	87.00	118.00	118.00	35.6%
輸入量	1.65	3.50	1.70	1.70	▲ 51.4%
消費量	68.50	72.00	73.00	73.00	1.4%
輸出量	35.23	18.50	43.00	43.00	132.4%
期末在庫	5.23	5.23	8.93	8.93	70.7%
ウクライナ					
期首在庫	0.89	1.48	0.9	0.83	▲ 43.9%
生産量	35.89	30.30	38.00	40.00	32.0%
輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	6.40	7.10	6.50	6.90	▲ 2.8%
輸出量	28.93	23.86	31.50	32.50	36.2%
期末在庫	1.48	0.83	0.91	1.45	74.7%
中 国					
期首在庫	210.18	200.53	205.7	205.7	2.6%
生産量	260.78	260.67	273.00	272.55	4.6%
輸入量	7.58	29.51	26.00	26.00	▲ 11.9%
消費量	278.00	285.00	294.00	294.00	3.2%
輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02	—
期末在庫	200.53	205.70	210.68	210.24	2.2%
世界計					
期首在庫	322.37	306.29	291.87	292.69	▲ 4.4%
生産量	1,119.71	1,122.80	1,204.62	1,208.73	7.7%
輸入量	167.76	186.48	183.42	185.45	▲ 0.6%
消費量	1,135.79	1,136.40	1,192.07	1,195.88	5.2%
輸出量	172.33	177.45	203.47	204.86	15.4%
期末在庫	306.29	292.69	304.42	305.54	4.4%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 水野 崇)

中国の生産・消費減見込みも、 記録的生産で全体の大豆期末在庫は高水準

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2021年12月9日、2021/22年度の世界の大豆需給予測値を更新した (表)。

これによると、世界の大豆生産量は3億8178万トン (前年度比4.2%増) と前月から223万トン下方修正されたが、引き続き前年度を上回る記録的な生産が見込まれている。最大の生産国であるブラジルは過去最大とされているほか、米国およびアルゼンチンも前月対比で据え置かれ、いずれの生産量も前年度を上回ると見込まれている。一方、中国は、中国国家統計局による大豆生産量減少の発表を受けて前月から260万トン下方修正されており、主にこの減少分が反映される形となった。

輸出量は、世界全体で1億7234万トン (同4.6%増) と前月から25万トン上方修正され

た。最大の輸出国であるブラジルや、これに次ぐ米国、アルゼンチンは、いずれも前月対比で据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億6978万トン (同2.4%増)、うち、最大の輸入国である中国は1億トン (同0.2%増) と、いずれも前月対比で据え置かれた。

消費量 (搾油仕向け) は、世界全体で3億2775万トン (同3.8%増) と前月から107万トン下方修正された。最大の消費国である中国が前月から100万トン下方修正されたのがほぼ反映される形となった。

この結果、引き続き世界の生産量が消費量を上回っていることから、期末在庫は1億200万トン (同2.2%増) と前月から178万トン下方修正されたものの、1億トンを上回ると見込まれている。

表 主要国の大豆需給見通し (2021年12月9日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		前年度比 (増減率)
			(11月予測)	(12月予測)	
米国					
期首在庫	24.74	14.28	6.97	6.97	▲ 51.2%
生産量	96.67	114.75	120.43	120.43	4.9%
輸入量	0.42	0.54	0.41	0.41	▲ 24.1%
消費量	58.91	58.26	59.60	59.60	2.3%
輸出量	45.70	61.66	55.79	55.79	▲ 9.5%
期末在庫	14.28	6.97	9.25	9.25	32.7%
ブラジル					
期首在庫	32.47	20.00	27.95	27.95	39.8%
生産量	128.50	138.00	144.00	144.00	4.3%
輸入量	0.55	1.02	0.65	0.65	▲ 36.3%
消費量	46.74	46.75	47.70	47.70	2.0%
輸出量	92.14	81.65	94.00	94.00	15.1%
期末在庫	20.00	27.95	28.25	28.25	1.1%
アルゼンチン					
期首在庫	28.89	26.65	25.06	25.06	▲ 6.0%
生産量	48.80	46.20	49.50	49.50	7.1%
輸入量	4.88	4.82	4.80	4.80	▲ 0.4%
消費量	38.77	40.16	42.00	42.00	4.6%
輸出量	10.00	5.19	5.35	5.35	3.1%
期末在庫	26.65	25.06	24.61	24.61	▲ 1.8%
中国					
期首在庫	19.46	26.79	34.49	34.48	28.7%
生産量	18.09	19.60	19.00	16.40	▲ 16.3%
輸入量	98.53	99.76	100.00	100.00	0.2%
消費量	91.50	93.00	98.00	97.00	4.3%
輸出量	0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫	26.79	34.48	35.69	34.08	▲ 1.2%
世界計					
期首在庫	114.09	95.53	100.11	99.81	4.5%
生産量	339.88	366.23	384.01	381.78	4.2%
輸入量	164.97	165.84	169.78	169.78	2.4%
消費量	312.42	315.77	328.82	327.75	3.8%
輸出量	165.06	164.75	172.09	172.34	4.6%
期末在庫	95.53	99.81	103.78	102.00	2.2%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

(調査情報部 横田 徹)

米 国

2021/22年度の米国トウモロコシ需給予測、前回と変化なし

USDA/WAOBは2021年12月9日、2021/22年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは、前回と変化なく、次の通りである（表）。

生産量は、150億6200万ブッシェル（3億8259万トン^{（注1）}、前年度比6.7%増、前月同）と前月対比で据え置かれたが、前年度からかなりの程度増加する見込みであり、これまでの統計で最も生産量の多かった16/17年度の151億4800万ブッシェル（3億8477万トン）に迫る水準となっている。

消費量は、123億3000万ブッシェル（3億1320万トン、同2.2%増、前月同）と前月対比で据え置かれた。

輸出量は、25億ブッシェル（6350万トン、同9.2%減、前月同）と前月対比で据え置か

れたが、依然として記録的な輸出货量となった前年度からかなりの程度の減少が見込まれている。

期末在庫は、14億9300万ブッシェル（3794万トン、同20.8%増、前月同）と前月対比で据え置かれた。この結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は10.1%（同1.8ポイント増、前月並み）と前月から引き続き10%台を維持している。

また、生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり5.45米ドル（632円。1キログラム当たり24.9円：1米ドル＝116円^{（注2）}）と前月対比で据え置かれた。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末日TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2021年12月9日米国農務省公表）

区分	－単位－	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度			前年度比 (増減率)
				(11月予測)	(12月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.7	93.3	93.3	37.8 (百万ヘクタール)	2.9%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.3	85.1	85.1	34.4 (百万ヘクタール)	3.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	171.4	177.0	177.0	11.1 (トン/ヘクタール)	3.3%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,111	15,062	15,062	382.59 (百万トン)	6.7%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	24	25	25	0.64 (百万トン)	4.2%
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,236	1,236	31.40 (百万トン)	▲ 35.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,055	16,323	16,323	414.62 (百万トン)	1.7%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,186	12,066	12,330	12,330	313.20 (百万トン)	2.2%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,900	5,601	5,650	5,650	143.52 (百万トン)	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,286	6,465	6,680	6,680	169.68 (百万トン)	3.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,028	5,250	5,250	133.36 (百万トン)	4.4%
輸出货量	(百万ブッシェル)	1,777	2,753	2,500	2,500	63.50 (百万トン)	▲ 9.2%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	14,819	14,830	14,830	376.70 (百万トン)	0.1%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,236	1,493	1,493	37.94 (百万トン)	20.8%
期末在庫率	(%)	13.7	8.3	10.1	10.1		1.8ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.53	5.45	5.45	24.7 (円/kg)	20.3%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

(調査情報部 水野 崇)

ブラジル

2021/22年度トウモロコシ、大豆の生産量はいずれも過去最大の見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は12月9日、2021/22年度第3回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図1、2）。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

トウモロコシ生産量は作付面積の増加、単収の回復により増加の見込み

2021/22年度（第1～第3期作）のトウモロコシ生産量は、前回より47万トン上方修正され、1億1718万1500トン（前年度比34.6%増）と前年度を大幅に上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった2019/20年度の記録を更新すると見込まれている。

全生産量の4分の1程度を占める第1期作トウモロコシは、作付面積の75.5%（11月末時点）で播種が行われた。生産量は、前回より46万5400トン上方修正され、2906万6000トン（同17.6%増）と前年度を大幅に上回ると見込まれている。これは、好調な市場価格を背景に作付面積が増加（同3.7%増）するとともに、前年度落ち込んだ単収の回復（同13.4%増）も見込まれるためである。一方、第1期作トウモロコシの最大の生産地である南部では、いずれの州でも11月に降水量不足となっており、特にリオグランデドスル州では、今後の作物への影響が懸念されている。

また、全体の4分の3程度を占める第2期

作も第1期作と同様に作付面積および単収が増加し、生産量は8625万9100トン（同42.0%増）と前年度を大幅に上回ると見込まれている。

21/22年度のトウモロコシ需給動向を見ると、輸出量は生産量の増加や米ドルに対するレアル安により3668万トン（前年度比91.0%増）と前年度から大幅な回復が見込まれている。また、消費量は、20/21年度に続き家畜飼料向けやエタノール生産向けの需要が堅調であることから、7681万7500トン（同6.2%増）と前年度をかなりの程度上回るとされている。

大豆の播種は作付面積の9割が終了

2021/22年度の大豆生産量は、前回より78万トン上方修正され、1億4278万9900トン（前年度比4.0%増）と前年度をやや上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった前年度の記録を更新すると見込まれている。これは、好調な市場価格を背景に作付面積が前年度より同3.7%増加するとともに、南部地域の一部を除き天候に恵まれ、11月末時点で作付面積の91.5%で播種が行われたためである。

最大の生産地である中西部のマットグロッソ州では、十分な降水量と播種に適した天候に恵まれたことで、すでに播種は終了している。20/21年度は降雨の遅れなど天候に恵まれず播種作業が遅れた結果、収穫後の第2期作トウモロコシの播種作業などに影響を及ぼした。21/22年度は播種作業の遅れがないことから、12月末に最初の収穫作業が始

まり、1月に作業が集中するとみられている。

21/22年度の大豆需給動向を見ると、輸出量は生産量が増加することから9067万2000トン（前年度比5.7%増）と前年度を上回ると見込まれている。また、加工量は前

年度並みとしているものの、22年はバイオディーゼルの混合比率が10%（20年の平均混合比率は11%）に引き下げられることから、大豆油の国内消費量は減少すると見込まれている。

表 2021/22年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積 (千 ha)				単収 (トン /ha)				生産量 (千トン)			
	2020/21	2021/22			2020/21	2021/22			2020/21	2021/22		
		(11月予測)	(12月予測)	前年度比増減率		(11月予測)	(12月予測)	前年度比増減率		(11月予測)	(12月予測)	前年度比増減率
穀物合計	69,007.2	71,844.5	72,004.1	4.3%	3.6	4.0	4.0	11.0%	252,789	289,787.7	291,067.2	15.1%
トウモロコシ	19,931.9	20,888.7	20,939.3	5.1%	4.4	5.6	5.6	28.1%	87,049.9	116,711.5	117,181.5	34.6%
第1期作	4,347.4	4,457.2	4,506.6	3.7%	5.7	6.4	6.4	13.4%	24,722.4	28,600.6	29,066.0	17.6%
第2期作	14,999.2	15,846.6	15,847.4	5.7%	4.0	5.4	5.4	34.4%	60,740.6	86,255.8	86,259.1	42.0%
第3期作	585.3	584.9	585.3	0.0%	2.7	3.2	3.2	17.0%	1,586.9	1,854.9	1,856.1	17.0%
大豆	38,925.5	40,273.6	40,351.7	3.7%	3.5	3.5	3.5	0.3%	137,320.9	142,009.9	142,789.9	4.0%

資料：ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）

注1：2021年12月9日公表データ。

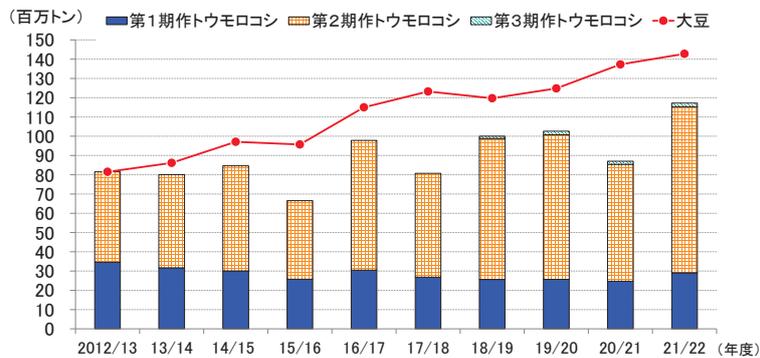
注2：第1作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

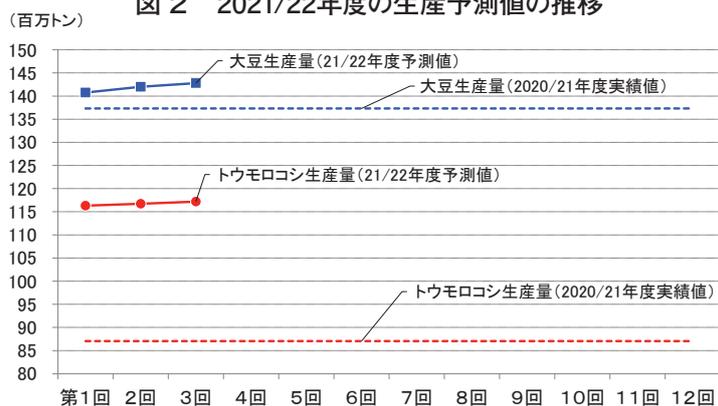


資料：CONAB

注1：2021/22年度は予測値。

注2：2021年12月9日公表データ。

図2 2021/22年度の生産予測値の推移



資料：CONAB

注：生産予測値の第1回目は10月公表、以降毎月更新。

参考1 ブラジルのトウモロコシ需給動向

(単位：千トン)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	増減率 (%)
					期首在庫量
生産量	100,042.7	102,515.0	87,049.9	117,181.5	34.6
輸入量	1,596.4	1,453.4	2,700.0	900.0	▲ 66.7
供給量	116,221.2	114,157.8	100,352.3	126,894.9	26.4
消費量	64,957.8	68,662.5	72,338.9	76,817.5	6.2
輸出量	41,074.0	34,892.9	19,200.0	36,680.0	91.0
期末在庫量	10,189.4	10,602.4	8,813.4	13,397.4	52.0

資料：CONAB

注：2021年12月9日公表データ。

参考2 ブラジルの大豆需給動向

(単位：千トン)

年度	2020/21	2021/22	増減率 (%)
			期首在庫量
生産量	137,320.5	142,790.0	4.0
輸入量	900.0	500.0	▲ 44.4
種子/その他	3,471.0	3,625.0	4.4
輸出量	85,794.0	90,672.0	5.7
加工量	48,387.0	48,489.0	0.2
期末在庫量	4,790.0	5,294.0	10.5

資料：CONAB

注：2021年12月9日公表データ。

(調査情報部 井田 俊二)

中国

トウモロコシ、供給量の確保から価格は弱含みで推移と予想

中国農業農村部は12月20日、「農産物需給動向分析月報（2021年11月）」を公表した。この中で、短期的なトウモロコシの国内価格の動向について、輸入量の増加や新穀の

出回りなどにより十分な供給量が確保されていることで、弱含みで推移すると予想している（図）。

図 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国内価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格(関税割当数量内：課税後)。

一方、21年11月の国内価格上昇の要因として、同月中旬から下旬にかけて主産地の東北部で発生した降雪などによる輸送の遅れを挙げている。また、豚肉価格の回復に伴う飼料向け需要の高まりに加え、工業向け需要の回復から在庫補充が意欲的に行われていることも、同月の価格上昇の一因としている。

主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関税）は、11月が1キログラム当たり2.56元(47円：1元=18.36円^(注))

と前月からわずかに下落し、国産のトウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）に比べ同0.32元（6円）安と前月より価格差が広がっている。一方、関税割当数量を超えた同トウモロコシ価格（65%の関税+25%の追加関税）は同4.10元（75円）と下落し、国産に比べ同1.22元（22円）高いが前月より価格差は縮まった。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末日TTS相場。

(調査情報部 横田 徹)

国産大豆価格は引き続き高水準も上昇に歯止めと予想

2021年の大豆の収穫はほぼ終了し、生産量は前年に比べて減少ながらも品質は良好と報告されている。一方で、大豆主産地の一つである東北部の黒龍江省でのCOVID-19新規感染者数の拡大や大雪の影響から輸送が制限されたことで、業者が買い取った新穀の多

くが備蓄用として省内の国家貯蔵庫向けに販売されている。また、価格高を見越し農家の在庫水準も高いとみられており、市場流通量が限られていることで国産の大豆価格は引き続き高い水準で推移している（図）。

図 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国内価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

黒龍江省の搾油用向け大豆平均取引価格は、11月が1キログラム当たり5.00元（92円、前年同月比8.0%高）、同じく食用向け同価格は同6.12元（112円、同21.8%高）と前年に比べて高い水準にある。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.44元（118円、同15.8%高）と同じく高い水準にある。

国産大豆価格の上昇を受けて、下落基調にある輸入大豆との価格差は11月が同2.18元（40円）と前月からさらに拡大した。今後の見通しについて「農産物需給動向分析月報（2021年11月）」では、価格高騰から需要が弱く、また、業者の買い付けもあまり活発ではないことから、国内大豆価格の上昇に歯

止めがかかるとしている。

このような中で、中国の大豆輸入量は引き続き高い水準にある。21年1～10月の大豆輸入量は7908万トン（前年同期比5.0%減）とやや減少傾向にあるが、同輸入額は前半の穀物価格の上昇を反映し同33.8%増の431億8000万米ドル（5兆97億円：1米ドル＝116.02円^(注)）と報告されている。主な輸入先は、ブラジル（輸入量の66.1%）、米国（同28.5%）、アルゼンチン（同3.1%）となった。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年12月末日TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）